

沖縄研修レポート

大島高校一年 山城そら

【沖縄研修で感じたこと】

沖縄の自然の豊かさ。

ありきたりだと思うかもしれないが、今ある沖縄特有の多種多様な自然こそ現代に生きる私たちが残していくべき遺産であると感じた。そしてその自然を残すための施設や人々の育成などの取り組みが行われていた。

【沖縄の自然】

○ 多種多様な生き物

- オキナワイシカワガエル
- リュウキュウマイマイ
- オキナワキノボリトカゲ
- ホルストガエル
- ザトウムシ



○ヤンバルクイナ

- 国の天然記念物
- 夜行性
- 天敵はハブやカラス
- 食べ物はリュウキュウマイマイ
- くちばし、目、足の三箇所が赤い
(足、目、くちばしの順に赤くなる)



【おもしろい生態】

- ジャンプ力が高い

→ 約1メートルほど跳べるのでよく
松の木の枝の上にいる

- 水浴びをする

→ 寄生虫対策

1日に夏は3~6回、冬は1~2回

- 繁殖期になるとオスは自分のとった
エサをメスにプレゼントする

→ 新しいエサを貯めていき、古いものは
食べていく

【近年の問題】

ロードキル問題

ヤンバルクイナは夜行性のため、夜間に車に轢かれてしまう個体が多く、事故に遭っても暗くてわかりにくいため、救助ができずに手遅れになってしまう個体が多い

○沖縄の星空

現在、やんばる地域は星空保護区の申請をしている

→光害（人工物による不要な光により天体観測に障害を及ぼしたり、生態系の錯乱に繋がったりする公害）の少ない地域であるため

※奄美大島も同様に光害の少ない地域である

•東京の企業と連携してやんばるの星空を物語で伝えるプラネタリウムの運営

•ヤンバルクイナ座というものもある

【自然と共存していくための取組】

○やんばる学びの森

ヤンバルクイナの保護（事故にあった個体の手当と飼育）

ヤンバルクイナへの人々の教育の場として成り立っている

【施設設備の工夫】

•天井が網張り

→自然の天気の移り変わりを反映して

ヤンバルクイナのストレス軽減

•給餌は少量

→すみかの地面に敷く土の中にいるミミズや木の実を

とって食べさせ、足りない分を補わせることで

自然の中で生き残る力を忘れさせない

•観覧者はカメラのフラッシュライト禁止

→ヤンバルクイナのストレス源を減らすため

○辺土名高校

山、川、海に囲まれた学校であり、自然環境科やサイエンス部の生徒が日々沖縄などの生物に対する知見を深めている

→沖縄の自然を後世に伝えていくための
知識を持った若者の育成

•学校内には自分たちの飼育している生物や卒業生の作った剥製の展示されているスペースが設けられている

•サイエンス部ではイベントを通じて海外交流も行われている

○OIST

次世代で活躍する研究者を育てるための
大学院大学

- 学科は科学技術研究科の一つのみ

→様々な分野に派生した研究可能

- 公用語は英語

→世界に通用する論文執筆のため

様々な国籍、年齢の学生が入学

- 環境にやさしい建築

→建物どうしをつなぐ橋は谷と谷の間につくり谷を埋めな
いようにしたり、山にトンネルをほって繋げたりすること
で、環境にやさしい設備になっている

【沖縄研修を通して分かったこと】

- 沖縄県は多種多様な自然にあふれている
- 人口も多く、都市発展もしているが、自然と共存するための工夫がなされている
→だからこそ沖縄を訪れようと思う
私たちの行動も考えていくべきである

おしまい